

国際化学肥料ニュース (2017年5月)

肥料業界の2017年5月動態

- * 中国国家统计局の公式統計データによれば、2017年1～3月の化学肥料生産量が前年同期より7%減の1681.88万トン(100%N、P₂O₅、K₂O換算、以下同)。窒素肥料の生産減が目立ち、12.4%減の1084.94万トン、特に尿素が20.8%も減少した。りん酸肥料が3.5%増の454.05万トン、加里肥料も7.1%増の138.46万トンである。

- * 尿素の国際価格が下落し続けている。特にアメリカ、ブラジル、アルゼンチンなど西半球地域の尿素需要が弱く、中東メーカーが安く売るしかない。6月上旬、エジプトが大粒尿素のFOB価格を189～190ドル/トンに値下げして、10万トン超の輸出契約をまとめた。また、カタールとサウジアラビアもブラジル向けにFOB187ドル/トンを提示した。インドも中東産とイラン産尿素を積極的に選定する動きがある。

- * 中国国家统计局のデータによれば、4月の中国窒素肥料生産量が13%減の354.46万トン(N換算、以下同)、1～4月窒素肥料生産量が13.2%減の1389.43万トン。とりわけて尿素生産量の下げ幅が一番大きい。4月尿素生産量が19.8%減の235.29万トン、1～4月尿素生産量が20.2%減の919.17万トン。
一方、中国税関の貿易データによれば、4月の中国化学肥料輸出量163万トン、輸入量85万トン。1～4月化学肥料輸出量が14.1%減の495万トン、輸入量が26.1%増の414万トン。

- * 尿素の国際市場価格の下落を見て、貿易商が南米向けにエジプトと中東湾岸から大粒尿素を積極的に購入する動きがある。5月中旬カタールとクウェートからFOB190ドル/トンの価格で13万トンを購入したほか、エジプトからも同様の価格帯で25万トンを契約し、6月船積み予定である。
一方、インドIPL社は5月17日に小粒尿素の入札を行い、29日開札する予定である。また、別のインド商社も5月29日に新に小粒尿素入札を行う予定である。イランはインドの尿素入札にFOB180～190ドル/トンで応札するようである。

- * りん安の値下がりが止まらない。中国大手DAPメーカーがFOB価格を350ドル/トンに保つように減産を続けているが、モロッコとサウジアラビアが低価格で攻勢を強める。5月中旬現在、DAPのCFRインド価格が350～360ドル/トンで、CFRパキスタンも360ドル/トンである。一方、MAPのCFRブラジル価格が360ドル/トンまで低下した。

- * インド IPL 社が 5 月 17 日に行った尿素入札は 29 日に開札した。応札数量 165 万トン、最低応札価格は CFR インド西海岸 211.25 ドル／トン、CFR インド東海岸 212.25 ドル／トンである。最低応札価格を出したのはイラン産尿素と推測される。また、IPL 社は CFR215 ドル／トンまでの価格で約 51.5 万トンを契約する予定。
- * パキスタン政府は 2017～2018 年度の肥料補助金政策を発表した。補助金を受けた後の尿素最高小売価格が 1400 ルビー（約 13 ドル）／40kg 袋、DAP も 2500 ルビー（約 23.2 ドル）／40kg 袋と規制される。また、2017～2018 年度予算には農家向けに総額 95 億ドルの農業融資を計上し、零細農家に 9.9%の低金利で貸出す予定である。
- * 加里肥料の国際価格が上がりそうである。カナダの Canpotex 社は 7 月以降中国とインドを除くアジア太平洋地域に提示した塩化加里価格が 20 ドル／トンの値上げで、CFR マレーシアとインドネシアの価格が 250 ドル／トンとする。ベラルーシの BPC 社も同じ価格を提示した。一方、Canpotex 社は 6 月ブラジルに CFR270 ドル／トンの価格で 3.5 万トン大粒塩化加里を販売するほか、7 月以降はさらに 10 ドルを上げて CFR280 ドル／トンとする予定である。
- * 5 月上旬、インドが国際加里肥料メーカーとの間に 2017～2018 年度の塩化加里輸入基本契約に関する交渉を開始した。インド側は昨年と同じ（CFR227 ドル／トン）または 10 ドル／トン以内の上げ幅を希望しているが、加里肥料メーカー側は 30 ドル／トンの上げ幅を主張している。
- * 5 月 22～24 日、モロッコのマラケシュ市に国際肥料工業協会（IFA）の第 85 回年度大会はモロッコのマラケシュ市に開催された。主な話題はインドの肥料産業とアフリカの化学肥料需要である。

世界最大の化学肥料輸入国インドは、現政権の「Made in India」の政策に従い、化学肥料生産能力の拡張が速いスピードで進んでいる。2021 年に尿素の自給自足を目指すほか、りん安についても完成品の輸入ではなく、粗りん酸を輸入して国内生産に方向転換する。2016～2017 年度にりん酸肥料の国内生産量が 13%増、輸入量が 26%減と報告される。

一方、アフリカでは化学肥料の使用量が 20kg／ヘクタールしかなく、世界平均の 130kg／ヘクタールに遠く及ばない。主な原因は政府部門が化学肥料の重要性に対する認識不足で化学肥料補助金制度がほとんどない。また、土壌分析体制が備えず、農家に栽培指導もなく、化学肥料の無駄が多い。但し、アフリカの政治安定、経済発展と教育普及に伴い、化学肥料にとって一番有望な未開拓の新市場と期待している。

大手各社の営業業績

- * ロシア Acron 社が 2017 年第 1 四半期の業績を公表した。Novgorod にあるアンモニア生産ラインの竣工と稼働開始、Dorogobuzh 工場の硝安と化成肥料の拡張が功を奏し、肥料生産量が 25%増の 150 万トンに達した。その内訳はアンモニアが 40%増の 64.8 万トン、窒素肥料が 15%増の 99.1 万トン、化成肥料が 34%増の 67.4 万トンである。
- * カナダ PotashCorp 社は 2017 年第 1 四半期の業績を公表した。主力の加里肥料販売量が 22%増の 220 万トン、窒素肥料販売量が 6%減の 160 万トン、りん酸肥料販売量が 54%減の 60 万トン。コスト削減の結果、粗利が 12.8%増の 2.68 億ドル。
- * ヨルダンの APC 社が第 1 四半期の業績を公表した。1~3 月の塩化加里生産量が 25%増の 55.7 万トン、販売量が 89%増の 60.3 万トン、純利益が 12%増の 3710 万ドル。
- * アメリカの Mosaic 社は 2017 年第 1 四半期の業績を公表した。りん酸肥料と加里肥料の販売量が増えたものの、価格の下落で、売上高が減少した。主力のりん酸肥料は生産量が 4.5%増の 230 万トン、販売量 256 万トン、販売金額が 7.7%減の 8.39 億ドル。加里肥料は生産量 200 万トン、販売量が 33.3%増の 200 万トン、販売金額が 5.1%増の 4.14 億ドル。但し、営業利益が 3000 万ドルしかなく、純利益が 100 万ドルの赤字である。
- * 中国最大の加里メーカー塩湖公司は 2017 年第 1 四半期の業績を公表した。塩化加里の価格低迷に加え、販売量も 27 万トン減少したほか、新規事業の金属マグネシウム事業と炭酸リチウム事業も不振で、上場以来初の赤字を計上した。赤字額 2.24~3 億人民元（約 3200~4300 万ドル）。第 2 四半期も赤字の見通しである。
- * ドイツ K+S 社が第 1 四半期の業績を公表した。主力の塩化加里販売量 82 万トン、特殊肥料販売量 78 万トン、売上高が 3%増の 11.3 億ユーロ、純利益が 49%減の 1.022 億ユーロ。
- * チリの SQM 社が第 1 四半期の業績を公表した。主力製品の塩化加里と硫酸加里販売量が 39%増の 39.51 万トンとその他の塩類製品の販売が順調であるため、売上高が 35.8%増の 5.319 億ドル、純利益が 76%増の 1.032 億ドル。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ドイツ K+S 社はカナダ Saskatchewan 州 Bethune 町に建設する Legacy 加里鉱山が完成し、5 月 2 日に竣工儀式を行った。6 月から製品を出荷する予定、製品が全量南米と

アジアに輸出する。当該加里鉱山は K+S 社がカナダにおける初の生産拠点で、塩化加里生産能力 200 万トン、投資額 31 億ユーロ。

- * インドとマレーシアがマレーシアのマラッカ州に世界最大級のアンモニアと尿素工場を建設する意向書を締結した。計画生産能力はアンモニア 135 万トン、尿素 250 万トン、投資額 21 億ドル。製品が優先的にインドに輸出する。
- * 5 月 18 日、世界最大の鉱業会社 BHP ビリトン社の副社長 Giles Hellver 氏はカナダ Saskatchewan 州に建設している Jansen 加里プロジェクトが順調に進み、2023 年に生産開始の予定に変化がないと発表した。また、2018 年に当該プロジェクトに対してさらに 47 億ドルを投資し、最終生産能力を塩化加里 400 万トン／年に拡大するとも説明した。
- * モロッコの OCP 社はモロッコのマラケシュ市に開催された国際肥料工業会（IFA）の年度大会にりん酸肥料の生産能力拡張計画を発表した。2019 年までに主に Jorf Lasfar 工場に 8 億ドルを投資して、りん酸肥料の生産ラインを増設し、りん酸肥料生産能力が現在より 300 万トンを増やして、1500 万トン／年にする。また、2020 年からの新しい拡張計画も策定中で、Boucraa 工場にりん酸（P₂O₅）50 万トン、りん安 100 万トン、Jorf Lasfar 工場に過りん酸石灰と重過りん酸石灰 50 万トンの生産ラインを増設することが確実となる。2020～2027 年の間に毎年 100 万トンずつりん酸肥料生産能力を増やして、2027 年に 2300～2500 万トンとする。

その他

- * 中国化学肥料の生産能力過剰と輸出不振で、化学肥料業界は軒並み業績が悪化した。輸出を通じて生産過剰を解消するため、大手メーカーを中心に中国政府に化成肥料の輸出関税撤廃と輸出に限って徴収された増徴税の還付を要請する。

中国では農薬、農業機械、農業用ビニルなどの輸出には輸出関税がなく、徴収された増徴税も全額還付または部分還付制度がある。化学肥料だけが増徴税の還付がないばかりでなく、化成肥料の輸出には 20%の輸出関税がかかる。この歪みにより中国産化学肥料が国際市場における競争力が次第に失い、輸出量が激減し、国内の雇用まで悪影響を及ぼす。

- * 5月12日、ベトナム政府工業と貿易省が輸入化成肥料に対してアンチダンピング調査を開始すると発表した。主な対象が中国から輸入される税番3105.30と3105.40のDAPとMAPである。

- * 5月18日、ウクライナ政府は化学肥料の輸入関税をすべて廃止すると決定した。その理由は農家の生産コストを下げることによる収入増を目指ことである。また、現在執行しているロシア産化学肥料に対してアンチダンピング関税の徴収についても修正し、尿素とUAN（尿素硝安液肥）に対して31.84%のアンチダンピング関税を徴収する。